

都市再生整備計画 事後評価シート
釧路中心拠点地区（都市再構築戦略事業）

平成30年12月

北海道 釧路市

様式2-1 評価結果のまとめ

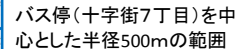
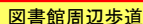
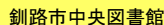
都道府県名	北海道		市町村名		釧路市		地区名		釧路中心拠点地区			面積	215 ha		
交付期間	平成27年度～29年度		事後評価実施時期		平成30年度		交付対象事業費		1,264.5百万円	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名												
			基幹事業	道路(案内標識設置)、中心拠点誘導施設(図書館)、既存建造物活用事業(地域交流センター)											
			提案事業	—											
	当初計画から削除した事業		事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	—					—			—			
	提案事業	—					—			—					
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(図書館周辺歩道整備)					誘導施設(図書館)周辺の歩道の段差解消し、安全性及び利便性を確保するため事業を追加			影響なし				
		提案事業	—					—			—				
	交付期間の変更	当初	—		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
		変更	—												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標			単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	市立釧路図書館の開館日の利用者数	人	79,460	H25	82,000	H29		111,371	○	あり なし	●	住民ニーズの高い図書館を、交通アクセスの良い中心拠点地区に多様な機能を備え、増床して整備したことにより、利用者の利便性向上が図られ、市民の図書館利用が促進された。	平成31年4月	
	指標2	市立釧路図書館の満足度(イベント・企画の増加)	%	55.8	H25	60.0	H29		70.7	○	あり なし	●	従来より実施してきたイベント内容を見直し、中心拠点地区に整備したことによる地域商店街等との連携事業など、イベントのバリエーションが増えたことにより、利用者の関心や満足度が高まり、参加者が増加して世代間交流の促進にもつながった。	平成31年4月	
	指標3	地域交流センターの開館日の利用者数	人	14,700	開設初年度	16,000	H29		17,178	○	あり なし		地域交流センターが中心拠点地区における既存商業施設内に整備されたことにより、利用者の利便性が高い施設となった。	—	
	指標4	中心拠点地区の歩行者数	人/日	10,071	H22	12,000	H29		5,701	×	あり なし	●	誘導施設(図書館)の開館から間もないことにより、新たな商業サービス等への波及効果や経済活動の活性化への動きが未だ表れていないことが要因である。	平成32年3月	
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標			単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
						基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
		その他の数値指標1	—												
		その他の数値指標2	—												
	その他の数値指標3	—													
4)定性的な効果発現状況	—														

5)実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

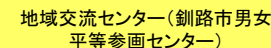
釧路中心拠点地区（北海道釧路市） 都市再生整備計画事業の成果概要

大目標 中心拠点地区における持続可能な都市構造への再構築と当該地域の賑わいの創出
目標1 地域の情報拠点、学びの拠点となる市立釧路図書館の整備による中心拠点の核づくり
目標2 公共施設等の機能再編による地域活力の向上と機能集積

- ・図書館(中心拠点誘導施設)
- ・図書館周辺歩道整備(高質空間形成施設)
- ・案内標識設置(道路(都市再構築戦略事業))



■基幹事業
・地域交流センター(既存建造物活用事業)



A photograph of a modern interior space, likely a warehouse or a large office. The ceiling is high and features exposed ductwork and lighting fixtures. The floor is a light-colored, polished concrete. In the foreground, there are several large, colorful storage containers or bins in blue, green, and yellow. The background shows a long, open space with more containers and a large window or glass partition.

まちの課題の変化	・都心部の核となる公共施設として図書館を整備したことにより、市内のみならず、近隣町村から新たな人の流れを喚起することができた。 ・地域交流センターを既存の商業施設に整備したことで利用者にとって利便性が高い施設となり、周知や利用促進に向けた事業実施により、利用者の増加につながった。また、市内のみならず近隣町村からも様々な団体や民間事業者の利用がみられるようになり、交流人口の増加につながった。 ・民間事業者による誘導施設としての図書館や地域交流センターの利用が増え、都心部である北大通周辺へ人の流れを創出する活動が活発化した。	
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・これまで以上に魅力ある図書館運営を行うことにより、図書館利用を促進し、中心拠点地区への人の流れを維持していく。 ・さらなる周知や利用促進に向けた事業実施を行い、地域交流センターの利用者数を維持していく。 ・中心拠点地区における店舗数(事業者数)の維持・増加にむけて、民間事業者による賑わい創出への取り組みや空き地・空き建物を活用した事業の促進に対して、財政的支援を行う。 ・創業希望者やあらゆる業種の事業者の「稼ぐ力」を強化し、地域経済のプラス成長と雇用の創出を図るため、無料の相談所を中心拠点地区に設置し支援していく。 ・公民連携による都心部における魅力あるまちづくりへの取り組みを行うとともに、商店街等の経済活動の活性化に対して財政的支援を行い、都心部で人が回遊する流れをつくる。	

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路(都市再構築戦略事業)	案内標識設置	5	1基	2	2基	第1回変更(平成28年12月19日)で案内標識の設置場所の見直しにより設置数を増、単独柱から既存街路灯への共架とし事業費を減	影響なし	●	
高質空間形成施設	図書館周辺歩道整備	-	-	12	L=366m 表層498㎡	第1回変更(平成28年12月19日)で中心拠点誘導施設(新図書館)周辺の歩道の段差を解消し、安全性及び利便性を確保するため事業を追加	影響なし	●	
中心拠点誘導施設	図書館	947	延床5749.01㎡	1,236	延床5289.48㎡	第1回変更(平成28年12月19日)で中心拠点誘導施設(新図書館)に係る実施設計完了に伴う延床面積及び事業費の変更、資材費及び人件費高騰などによる事業費の増	影響なし	●	
既存建造物活用事業	地域交流センター	15	延床363㎡	15	延床363㎡	無し	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	—								
	—								
	—								
事業活用調査	—								
	—								
	—								
まちづくり 活動推進事業	—								
	—								
	—								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
北大通3・4丁目地区優良建築物等整備事業		釧路市北大通	731	1,140	平成27年度～平成29年度	平成27年度～平成30年度	事業実施中	
	—							

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	市立釧路図書館の開館 日の利用者数	人	図書館開館日の利用者数を実 測する。	76,962	H16	79,460	H25	82,000	H29	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定 見込み	●	111,371	事後評価	○	
指標2	市立釧路図書館の満足 度(イベント・企画の増加)	%	イベント・企画に対する満足度 調査(利用者アンケート)を実施 する。	-	-	55.8	H25	60.0	H29	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定 見込み	●	70.7	事後評価	○	
指標3	地域交流センターの開館 日の利用者数	人	地域交流センターにおけるオー プンスペース及び貸会議室の利 用者数、イベント開催時の参加 者数を合計する。	-	-	14,700	開設初 年度	16,000	H29	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	17,178	事後評価	○	
指標4	中心拠点地区の歩行者 数	人/日	誘導施設(図書館)周辺の主要 道路である北大通の8箇所にお いて、歩行者数を平日、週休日 の各1回実測する。	11,597	H18	10,071	H22	12,000	H29	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	●	5,701	事後評価	×	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	誘導施設(図書館)である図書館を都心部に設置したことから交通アクセスの課題が解消されたとともに、利用者の利便性向上が図られ、もとより住民ニーズの高い施設ではあるが、期待以上の利用があり、目標達成が見込まれる。	—
指標2	新図書館が利用者の多様なニーズに対応できるように整備され企画実施への汎用性が高まり、開館当初に充実した内容のイベントを実施したことによって、インベントに関するアンケートにおいて多くの利用者に評価されており、目標達成が見込まれる。	—
指標3	地域交流センターを中心拠点地区における既存商業施設内に整備したことにより利用者にとって利便性が高い施設となり、開設後の周知や利用促進に向けた事業実施により利用者が増加した。また、測定方法が未確定であったオープンスペースの利用者数について、定期的な実測とその推計を用いることを決めたことで、より実態に近い利用者数を把握できるようになったと考えられる。	—
指標4	達成できなかった理由として、誘導施設(図書館)の開館が平成29年度末であり、新たな商業サービス等への波及効果や経済活動の活性化への動きが未だ表れておらず、中心拠点地区の歩行者数の増とはならなかった。	指標の計測を誘導施設(図書館)の開館から間もない時期に実施したのが問題であった。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	—							モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2	—							モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3	—							モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

図書館を都心部の誘導施設として整備したことにより、図書貸出やイベント参加等の目的で図書館を利用するほか、図書の閲覧、学習のための図書館利用、待ち合わせ、公共交通機関の待ち時間等に利用するなど、当初定めた指標1における計測対象外の利用者も多く見受けられ、中心拠点地区における誘導施設としての役割を発揮している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	関係各課 課長級職員、係長級職員 (都市経営課、市民協働推進課、生涯学習課、商業労政課)	第1回 2018年8月17日 第2回 2018年10月5日 第3回 2018年10月19日	総合政策部 都市経営課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指 標 名		市立釧路図書館の開館日の利用者数		市立釧路図書館の満足度(イベント・企画の増加)		地域交流センターの開館日の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路(都市再構築戦略事業)】案内標識設置	○	住民ニーズの高い図書館を、交通アクセスの良い中心拠点地区に多様な機能を備え、増床して整備したことにより、利用者の利便性向上が図られ、市民の図書館利用が促進された。	—	従来より実施してきたイベント内容を見直し、中心拠点地区に整備したことによる地域商店街等との連携事業など、イベントのバリエーションが増えたことにより、利用者の関心や満足度が高まり、参加者が増加して世代間交流の促進にもつながった。	—	地域交流センターが中心拠点地区における既存商業施設内に整備されたことにより利用者にとって利便性が高い施設となり、開設後の市民への周知や、利用促進に向けた事業実施により利用者が増加した。		
	【高質空間形成施設】図書館周辺歩道整備	○		—		—			
	【中心拠点誘導施設】図書館	◎		◎		○			
	【既存建造物活用事業】地域交流センター	—		—		◎			
提案事業									
関連事業	北大通3・4丁目地区優良建築物等整備事業	—		—		—			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も市民の意見を聞きながら、利用促進を図っていく。	イベント開催時に実施するアンケート結果を基に、住民ニーズに即したイベントを企画し、実施していく。	地域交流センターの事業が今後も市民に関心を持ってもらえるような内容の企画を行うとともに、活動拠点としての利用を呼び掛ける。
-------	----------------------------	--	---

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標4											
指 標 名		中心拠点地区の歩行者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路(都市再構築戦略事業)】案内標識設置	△	誘導施設(図書館)の開館から間もないことにより、新たな商業サービス等への波及効果や経済活動の活性化への動きがまだ表れていないことが要因である。	I									
	【高質空間形成施設】図書館周辺歩道	△											
	【中心拠点誘導施設】図書館	△											
	【既存建造物活用事業】地域交流センター	△											
提案事業													
関連事業	北大通3・4丁目地区優良建築物等整備事業	—											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	近隣の公共施設や商店街との連携を強化し、都心部における経済活動の活性化やまちの魅力向上にむけて取り組む。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	関係各課 課長級職員、係長級職員 (都市経営課、市民協働推進課、生涯学習課、商業労政課、都市計画課)	第1回 2018年8月17日 第2回 2018年10月5日 第3回 2018年10月19日	都市経営課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地や地域商店街の 衰退	・都心部の核となる誘導施設(図書館)を整備したことにより、市内のみならず、近隣町村から新たな人の流れを喚起することができた。 ・地域交流センターを既存の商業施設に整備したことで利用者にとって利便性が高い施設となり、周知や利用促進に向けた事業実施により、利用者の増加につながった。また、市内のみならず近隣町村からも様々な団体や民間事業者の利用がみられるようになり、交流人口の増加につながった。 ・誘導施設(図書館)や地域交流センターの市民の利用が増え、都心部である北大通周辺へ人の流れを創出する活動が活発化した。	・誘導施設(図書館)や地域交流センターの利用者は増加傾向にあるが、中心拠点地区における回遊性の向上には未だ結びついていない。 ・空き店舗を活用して出店する飲食・サービス業の事業者が増加しているが、空き店舗や空き地が未だ多く点在する。	—
図書館の老朽化、狭隘化、利用者ニーズの多様化への対応、交通アクセスの課題及び巨大地震への対応	・老朽化、狭隘化が解決されたとともに、利用者ニーズに柔軟に対応できる形に整備できた。 ・交通結節点である都心部に図書館を設置したことで、利用者の利便性向上が図られ、利用者が増加の見込まれる。 ・耐震強度が不足する建物から耐震基準を満たす建物内に図書館を整備したことにより、利用者の安全性を確保することができたことに加え、津波緊急避難施設として津波浸水予想地域へ整備したことにより、津波発生時における市民の受入体制を強化することができた。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	図書館利用の促進	これまで以上に魅力ある図書館運営を行うことにより、図書館利用を促進し、中心拠点地区への人の流れを維持していく。	・計画的な蔵書の整備 ・利用者ニーズの多様化へ対応した事業実施 ・パンフレット配布拡大、SNSによる情報発信強化
	地域交流センターの利用促進	さらなる周知や利用促進に向けた事業実施を行い、地域交流センターの利用者数を維持していく。	・利用者ニーズに対応した事業実施 ・市HPや広報紙、関係機関への呼びかけによる周知の実施 ・センター独自のHPやFBなどSNSの活用による周知の実施
	都心部における賑わい創出への活動の持続	・民間事業者による賑わい創出への取り組みへ財政的支援を行うとともに、情報発信等も行っていく。	・賑わい創出に取り組む商店街等への補助の実施 ・市のHP等を活用した情報発信の実施

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心拠点地区における店舗数(事業者数)の維持・増加	・民間事業者の空き地・空き建物を活用した事業の促進に対して、財政的支援を行う。 ・創業希望者やあらゆる業種の事業者の「稼ぐ力」を強化するため、具体的な改善策の提案を通じた支援を行う無料の相談所を中心拠点地区に整備運営し、中心拠点地区の事業者・店舗も含めて経営支援していく。 ・中心拠点地区の商店街及び中心拠点地区に出店した事業者について情報発信を行い支援していく。	・中小企業者等が実施する空き地・空き建物を活用した事業への市融資の斡旋 ・飲食・小売・サービス業事業者の空き店舗出店にかかる経費の一部補助の実施 ・創業や経営支援にかかる無料相談所の整備運営 ・市と民間事業者のHP等での情報発信の実施
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	都心部における回遊性の創出	・公民連携による都心部における魅力あるまちづくりへの取り組みを行っていく。 ・都心部における商店街等の経済活動の活性化に取り組み、人の流れをつくる。	・誘導施設(図書館)や、こども遊学館、地域交流センター等の近隣の公共施設や商店街との連携、協同イベントの実施 ・競争力強化に取り組む商店街等への補助の実施

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5－②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	市立釧路図書館の開館日の利用者数	人	79,460	H25	82,000	H29	確定		111,371	○	あり ●	平成31年4月	平成30年4月～31年3月の利用者数実績から平成30年度の利用者数を確定値として求める。	
							見込み ●				なし			
指標2	市立釧路図書館の満足度(イベント・企画の増加)	%	55.8	H25	60.0	H29	確定		70.7	○	あり ●	平成31年4月	平成30年4月～31年3月に実施するイベントのアンケート結果から平成30年度の満足度を確定値として求める。	
							見込み ●				なし			
指標3	地域交流センターの開館日の利用者数	人	14,700	開設初年度	16,000	H29	確定		17,178	○	あり			
							見込み				なし			
指標4	中心拠点地区の歩行者数	人/日	10,071	H22	12,000	H29	確定		5,701	×	あり	平成32年3月	平成31年度中に実施する通行量調査により、達成状況を確認する。	
							見込み				なし ●			
指標5							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1							確定							
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	図書館利用者数、図書館イベント等の満足度を指標としたことで、利用状況や利用者ニーズを把握することができ、その数値により事業の効果を確認することができた。	短期間での計測よりは、ある程度の期間を設けて継続的に計測できる形が望ましい。
	うまくいかなかった点	中心拠点地区の歩行者数の計測期間が短かったことや、計測時期が誘導施設(図書館)開設の直後だったため、波及効果が十分にとらえきれなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	数値目標が利用者数である指標については目標を達成できたか達成する見込みがあり、事業の有益性が確認できた。	・数値目標を設定するにあたり、計測期間等も十分に配慮すべき。
	うまくいかなかった点	・従前値は商業統計における調査結果を用いて設定したが、その実施時期と誘導施設(図書館)の開設時期が異なり、従前値や目標値との比較に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	指標とした図書館利用者数、図書館イベント等の満足度は、毎年度数値が整理されているものであり、誘導施設(図書館)設置2か月後であるが、容易に見込み数値を推計、確認することができる。	事業実施期間中にも情報や課題を全庁的に共有し、今後の改善策を検討できるような体制構築をしておくことが望ましい。
	うまくいかなかった点	事業着手から事後評価を実施するまでの間、庁内で横断的な検討組織を設けていなかったため、情報整理や課題の共有、進捗状況の把握に苦慮した。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

釧路市ではシビックコア地区整備計画の中で、広場機能となる「中央オープンスペース」を創出することで、多くの市民に憩いの場を提供することや地域住民の生活の質の向上などを図ることとしている。このオープンスペースの整備にあたっては、都市再生整備計画事業を活用することを考えており、当地区の経験を十分に踏まえた上で計画策定にあたりたい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成30年11月1日～11月14日	平成30年11月1日～11月14日	担当課への電話、 FAX、電子メール	総合政策部都市経営課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報紙「広報くしろ」にて、ホームページ及び関係窓口で原案を公表している旨を掲載	平成30年10月26日	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市関係窓口での閲覧	平成30年11月1日～11月14日	平成30年11月1日～11月14日		

住民の意見	・意見の提出はなかった。
-------	--------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	釧路公立大学 准教授 田中 達也	平成30年11月14日	総合政策部都市経営課	釧路市地域協議会条例	釧路地域協議会
その他の委員	釧路商工会議所 専務理事 川村 修一（釧路地域協議会会長） 一般社団法人 釧路水産協会 専務理事 檜森 重樹 特定非営利活動法人 くしろ・わっと 理事長 小林 友幸 公募委員 三上 葉月 公募委員 川原 芳範 公募委員 山本 みどり 釧路市女性団体連絡協議会 会長 平間 育子（釧路地域協議会副会長）（欠席） 社会福祉法人 釧路市社会福祉協議会 常務理事 藤澤 隆司（欠席） 釧路市PTA連合会 会長 川辺 大樹（欠席）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に沿って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1「市立釧路図書館の開館日の利用者数」において、利生者数とは図書の貸し出し者数を指すが、図書を借りる以外の目的でも利用者数が多くみられることから、それらの効果発現状況も把握すべきという意見があった。 ・指標3「地域交流センターの開館日の利用者数」について、新規開設の施設にもかかわらず、整備先の同じ建物内の違う箇所での利用者数14,700人を従前値と設定されていることに違和感があるとの意見があった。 ・指標4「中心拠点地区の歩行者数」の従前値を測定した9月と評価値の測定が3月であったため、季節や気温等を考慮するとフォローアップでは同じ時期に計測すべきという意見があった。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案は市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	指標3「地域交流センターの開館日の利用者数」の数値目標は達成しているが、地域交流センターに対する市民の認知度を確認する方法を検討すべきという意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは、妥当であると認められた。
		・中心拠点地区において、廃ビルが景観に悪影響を与えていることから、廃ビルの除却への取り組みを加速させるべきとの意見があった。 ・市民のみならず、観光客等の交流人口に対する取り組みを積極的に行って、中心拠点地区の回遊性を生みだす取り組みを強化すべきとの意見があった。 ・図書館運営に関して市民ボランティアを活用できる仕組みが必要との意見があった。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・中心拠点地区において、廃ビルが景観に悪影響を与えていることから、廃ビルの除却への取り組みを加速させるべきとの意見があった。 ・市民のみならず、観光客等の交流人口に対する取り組みを積極的に行って、中心拠点地区の回遊性を生みだす取り組みを強化すべきとの意見があった。 ・図書館運営に関して市民ボランティアを活用できる仕組みが必要との意見があった。
	フォローアップ	特になし。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		特になし。